



国際森林年に因んだ 「森を歩く」を実感!

—— 岩手南部森林管理署

当署管内の「遊々の森」や東北局で初の「古事の森」では、協定を締結したNPO団体や育成協議会による森林環境教育等が活発に行われています。

今回は、昨年度の主な取組や、今年度の予定を紹介いたします。

● 未来の平泉を支える木に

作家・故立松和平氏が提唱した「平泉古事の森」では、昨年度、次代を担う地元小学生を対象に、「古事の森」についての学習と植樹活動を7月と9月の2回行いました。

「平泉古事の森」は、中尊寺や毛越寺などの歴史的木造建造物の修復材に必要な大径材を育てる超長期の森づくりを通じて、地域の方々と木の文化を支えていく活動を進めるものです。

「古事の森」についての学習では、各小学校でスライド等を使用し「古事の森日記」と題して、これまで植樹したヒバやケヤキの成長記録等を分かりやすく説明しました。

植樹活動では、参加した児童達は、ヒバの苗木を1本ずつ丁寧に植えて

おり、「自分達の植えた木が、将来、中尊寺金色堂の修理に使われるかもしれない」と聞いたので頑張って植えました」などの声が聞かれました。

● 放牧地を豊かな森林に蘇らせるための植樹と「森を歩く」

西和賀町貝沢地内に位置する「遊々の森」(名称・星めぐりの森)は、地元での自然観察会開催を目的に結成されたカタクリの会と協定を結んでいます。

一昨年には、隣接する大木原放牧地において植樹活動を行っています。ここは、放牧地として長年に渡り牧野組合に貸付していました。しかし、諸般の事情により返地したいとの要望があり、返地に伴う広大な面積の現状復旧には大変な労力が必要だったことから、カタクリの会がボランティアを募り、放牧地を豊かな森林に蘇らせようと植樹に取り組んでいます。

参加者からは、「昨年ポットにタネを蒔きましたが、ネズミに食べられていて、自然に戻すということはそう簡単ではないのだなと勉強になりました。これからも少しずつではありますが、

1本でも多く牧草地を森に近づけるお手伝いができればいいなと思います。」とお便りもありました。

今年、「国際森林年」ということもあり、多くの市民の方々にも参加して頂き植樹活動を行うとともに、隣接する「遊々の森」内を散策するなど「森を歩く」を実感して頂くよう取組を進めて参りたいと考えています。



放牧地での植樹



ヒバの苗を丁寧に植える児童達